コールサック社メールマガジン
2024年9月6日配信

このメールは、日ごろコールサック社がお世話に
なっている皆さま、また新たに編集者
（鈴木比佐雄・座馬寛彦・鈴木光影・羽島貝）
が名刺交換等で連絡先を交換させていただいた
皆さまへ配信しております。

■ 編集部より

秋冬のコールサック社の合同出版記念会

鈴木比佐雄

大いなるものが過ぎゆく野分かな　高浜虚子

太平洋で生まれた台風の卵であった10号は、太平洋
高気圧や偏西風にも乗れず、次第に勢力を強めて
九州に上陸し迷子のように時速十数キロで迷走し、
四国を巡り東海地方を横断し、風速がやや落ちて
熱帯低気圧にただ名前が変わった。しかしその影響は
線状降水帯や遠隔豪雨など最近よく聞く名称で言われて、
裏山が崩れて土石流が民家を破壊し、竜巻が起こり
民家の屋根や壁を巻き上げ、都市への集中豪雨では
看板をはぎ取り、下水道での処理が間に合わず、
道路が川になり自動車を水没させ、またマンホール
の蓋を吹き飛ばし水柱を発射させた。そして人と
生きものたちにも甚大な被害を残して消えていった。
まさに虚子の言うように「大いなるもの」が過ぎて
いったのだ。私たちはこれからも地球温暖化の迷子
の野分が行く場所を知らずに日本を縦断していくことを

覚悟して生きていくしかないのだろうか。

今年の秋冬には下記の３か所で合同出版記念会を計画している。

１、沖縄詩歌の言葉と朗読の魅力・合同出版記念会

日時：10 月 26 日（土）午後 3 時 30 分～6 時
場所：那覇市 IT 創造館大会議室（那覇市銘苅 2－3－6）
1 部：講演　大城貞俊（作家・評論家）「沖縄詩歌の言葉の魅力について」
2 部：朗読とスピーチ／おおしろ建、玉城洋子、与那覇恵子、山城発子、
高柴三聞、ローゼル川田、普久原佳子、南風ニーナなど各氏
参加費：500 円、定員 80 名

https://www.coal-sack.com/news/view/3035/

２、熊谷直樹・勝嶋啓太『妖怪絵巻』出版記念・朗読ライブ＆妖怪と猫と詩を語る会

日時：11 月 9 日（土）午後 2 時 30 分～5 時
場所：くまから洞（東京都中野区野方 6-40-19、西武新宿線野方駅北口から 5 分）
出演：熊谷直樹、勝嶋啓太、高柴三聞（沖縄からの特別ゲスト）、鈴木光影（司会）
参加費：1500 円（ワンドリンク付）。定員 30 名

https://www.coal-sack.com/news/view/3034/

３、2024 年刊行書籍＆『広島・長崎・沖縄からの永遠平和詩歌集』合同出版記念会

日時：2024 年 12 月 7 日（土）午後２時～５時
場所：東京文具共和会館（東京都台東区柳橋 1-2-10、JR 総武線「浅草橋駅 東口」徒歩 3 分）
1 部：講演　堀田季何（俳人・歌人・翻訳家）「『広島・長崎・沖縄からの永遠平和詩歌集』を世界に発信するために（仮）」
2 部：スピーチと朗読／東國人、岩上和道、小島まち子、酒井力、鈴木美紀子、董振華、村上喜代子など各氏

参加料：1000 円　定員 70 名

https://www.coal-sack.com/news/view/3036/

３つの合同出版記念会は、いずれも事前予約の先着順ですので、
メールや電話など下記の担当者までご連絡をお願い致します。

鈴木光影
m.suzuki@coal-sack.com
03-5944-3258
---

9 月 2 日に「コールサック」（石炭袋）119 号を刊行
した。今号の特集には 8 月 2 日に刊行した『広島・
長崎・沖縄からの永遠平和詩歌集――報復の連鎖
からカントの「永遠平和」、賢治の「ほんとうの
平和」へ』に関して十二名の方に論じてもらった。

私は後記でこの詩歌集を企画・編集した思いを
記したので下記に引用する。

【一九九七年に広島の詩人たちに招待され講演を
する詩人の浜田知章氏に誘われて、私は初めて
広島を訪ねた。今でも覚えているのは、長津
功三良氏が笑顔で出迎えてくれたことだ。私たちは
すぐに原爆ドームに向かい、原民喜の詩碑などを
見た後に、広島平和記念資料館に入った。その際
に私は衝撃を受けたが、出口に近付いた時に
浜田氏が気分は悪くならないかと声をかけて
くれた。私は「もう一度じっくり見たいので単独
行動したい」と言うと、浜田氏や長津氏は呆れた
顔をしていたことを覚えている。平和記念資料館
を二度見た後に私は、賢治の『雨ニモマケズ』
手帖の研究を切り拓いた小倉豊文氏が爆心地に

向かって妻を探しながら目撃したことを記した
『絶後の記録』を持って、その地名を訪ねる
ように広島の街を歩き回った。その時の経験や
新たな原爆詩集の構想が私にとって十年後の
二〇〇七年八月に刊行した『原爆詩一八一人集』
（日本語版、英語版は十二月）の実現につながって
いった。浜田氏は講演で二度と核兵器を使用
させない平和の哲学を「ヒロシマの哲学」と
名付けた。そして世界中に広島・長崎の悲劇から
汲み上げられた「ヒロシマの哲学」を詩にして
発信すべきだと熱弁を奮った。浜田氏は一九五二年
に主宰していた「山河」で長谷川龍生氏と共に
原爆特集を行い、自らも歴史に残る詩「太陽を
射たもの」を執筆した。その浜田氏から、御庄
博実氏や長津氏など広島・中国地方の詩人たち
を紹介されたのだった。戦後に大阪で「山河」
を創刊し、「列島」でも活躍した浜田氏が広島に
一緒に行こうと声を掛けてくれなかったら、
私はこれほど広島・長崎に関心を持つことは
なかっただろう。また浜田氏を私に紹介して
くれたシベリア抑留者で詩集『ナホトカ終結地
にて』の著者である鳴海英吉氏は、「コール
サック」創刊号から亡くなる三十七号まで寄稿
してくれた同志であった。その鳴海氏は私の
文学運動に浜田知章氏が必要であると助言し
紹介してくれたことも忘れることは出来ない。
会社員をしながら『鳴海英吉全詩集』や『浜田
知章全詩集』を企画・編集・刊行したことも、
後の出版社「コールサック社」を創業するため
の貴重な経験となった。私は二人の「列島」の
詩人たちから日本の歴史上で最も悲劇的な世代の
文学的な遺産を後世に語り継ぐことを託された
と考えている。そんな浜田氏や鳴海氏からの
厚情は、今でも何よりも代えがたい勇気や力を
与えてくれている。／昨年の初秋に構想し、
一一六号（十二月一日刊行）から公募を開始

した『広島・長崎・沖縄からの永遠平和詩歌集
――報復の連鎖からカントの「永遠平和」、
賢治の「ほんとうの幸福」へ』を八月二日に
刊行した。参加して下さった二六九名詩人・
俳人・歌人・その著作権継承者に心より感謝を
申し上げたい。どのような詩歌集になるかの
イメージがつかめないまま、呼び掛けの私の
評論や公募趣意書を手掛かりに、その趣旨に
賛同し参加してくれたことに重ねてお礼を
申し上げたい。装画には一九四五年被爆直後
の原爆ドームの写真、長崎の「焼き場に立つ
少年」、沖縄の「白旗の少女」の三枚の写真
を掲載させて頂いた。今号の裏表紙に書影を
紹介しているので参考にして欲しい／「序文
に代えて」の冒頭に私は次のように記したの
で引用したい。／《序文に代えて／ロシアが
ウクライナの首都キーウを侵略した二〇二二年
三月にテレビ・新聞などに映し出された、
バルト海沿岸の東欧の地図の中にリトアニアと
ポーランドに挟まれたロシアの飛び地「ケーニ
ヒスベルク」（現カリーニングラード）が、
私の中で心の疼きのように浮かび上がってきた。
ケーニヒスベルクは東プロシアの首都で「バルト
海の真珠」とも言われ、その地で哲学者イマニエル
・カントは生まれ育ち、『純粋理性批判』・
『実践理性批判』・『判断力批判』を書き
上げた後に、七十一歳で『永遠平和のために』
を書き上げて、一八〇四年に八十一歳で亡くなった。
ただその地は一九四四年にイギリス、アメリカ
の大編隊の爆撃機によって旧市内九八％が焼失
したと言われている。その後にソ連軍が侵攻し
現在はロシア領になっている。カントが人類の
ために書き残した『永遠平和のために』に記された
こととは、真逆な国際情勢が二十一世紀に
おいても未だ進行している。今だからこそ
カントの「永遠の平和（やすらぎ）亭」に立ち還るために、

その序文とも言える洒脱な文章と第一章の
骨子と最後の付録の９・10を左記に引用したい。
また宮沢賢治の「農民芸術概論綱要　序論」
も引用したい。そして『広島・長崎・沖縄
からの永遠平和詩歌集――報復の連鎖から
カントの「永遠平和」、賢治の「ほんとうの
幸福」へ』の私と共同執筆者たちからの
「序文に代えて」としたい。また本書の
英語版を二〇二五年春に刊行予定だ。英語版
によって世界中の人びとに「永遠平和」の
思いを伝えたいと考えている。》／二〇世紀
の最大の悲劇の原爆投下や沖縄戦の地上戦の
実相が何であったのか、その実相から生き
延びた日本人やそれを伝え聞いた子孫たちはどんな
教訓を得たのだろうか。今日のウクライナやガザなど
を見る限り、愚かな殺戮が繰り返し続いている。
そんな極限の悲劇を回避するために、詩歌の言葉の
力は有効な方法であることを明らかにしていきたい
と表現者たちは願って参加してくれたのだろう。
そんな二六九名の作品は「一章　被爆者の声、二章
　広島を語り継ぐ、三章　長崎を語り継ぐ、四章
沖縄を語り継ぐ、五章　空爆・破壊の記憶、六章
アフガニスタン・ウクライナ・ガザ・世界は今、
七章　戦争に駆り立てるもの、八章　喪失・鎮魂・
反戦、九章　永遠平和」に編集されている。私は
巻末に二六九名の詩歌の一行でも引用して参加者
の「永遠平和」を願う思いを論じた。締め括りに
「広島・長崎・沖縄・世界の戦場の経験から汲み
上げられた言葉には、後世の人びとに伝える極限的
な知恵が宿っていると私は考えている」と記した。
／刊行日の八月二日には本の趣旨をプレスリリース
にしてインターネット上で配信したが、共同通信社
がそのプレスリリースを要約し解説して全国の
地方紙に配信してくれた。今後は紙媒体の各種
新聞や文芸誌などで本格的な書評やコラムで紹介
してくれることを期待している。今号の特集では

八重洋一郎、高柴三聞、後藤光治、天瀬裕康、
日野百草、杉谷昭人、岡和田晃、福田淑子、河田
育子、栗林浩、渡辺誠一郎、赤野四羽の各氏十二名
が『広島・長崎・沖縄からの永遠平和詩歌集』の
歴史的な意義を語って下さった。本詩歌集を読む
際の良き手引きとなるだろう。】

9 月 1 日に熊谷直樹『妖怪絵巻　～化け猫日記』と
勝嶋啓太『妖怪絵巻　～でも くよくよしててもしょうがないから』が
同時発売された。
2018 年に刊行された二人の共著は『妖怪図鑑』だったが、
今回は同じタイトルだが、サブタイトルは異なる。
二人の一人ひとりの妖怪の世界はより濃密に読者に迫ってくるだろう。
裏の帯文で作品の一部が紹介されているで、紹介したい。

「その胸に顔をうずめる想像をしながら眠るというのだ
／架空の母親とは　シロクマだったり　ヒグマだったり
／パンダだったり　イヌだったり　ネコだったりした／
そうしないと　彼女は生きてくることが出来なかった／
そして彼女は　実際に飼っているネコのお腹に顔をうずめ／
自分が子ネコなんだと想像しながら眠りについた／そうして朝になって
そのままネコが顔に貼りついてしまった　というのだ」（熊谷直樹「猫娘」より）

「そこにいる奴に全部喰われちゃったんですよ　と言って／
部屋の隅を指さすと　そこには／やたら鼻の垂れた
白黒の呑気そうな奴がいて／……うん　確かにこいつは
　獏　だねえ……／でも　獏　って／眠っている時に見る
夢を食べるんじゃないの／将来の夢とか希望とかも食べる
もんなの？と聞くと／どっちか言うと　そっちの方が好物です
　と獏が言った」（勝嶋啓太「獏」より）

今年の秋冬も多くの書籍を企画・編集をして刊行する予定だ。
表現者たちのこの時代に向き合った「大いなるもの」を実現する
ための支援をしていきたい。

■　コールサック社刊、最新刊！！　━━━━━━━・・・・・・・・・・・・

・熊谷ユリヤ詩集『地球上に遍在するガザ・ウクライナ』

熊谷ユリヤ氏は本詩集によって、ガザ・ウクライナの痛みは
私たちの痛みではないか、と私たちに激しく問いかけているように思えてくる。
（鈴木比佐雄：帯文より）

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3027/

・熊谷直樹『妖怪絵巻〜化け猫日記』

＼さあ　さあ／
寄ってらっしゃい　見てらっしゃい
塗り壁に　あずき洗いに　子泣きじじい…
おもしろ妖怪　大集合だよ！（帯文より）

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3032/

・勝嶋啓太『妖怪絵巻〜でも　くよくよしてもしょうがないから』

＼さあ　さあ／
寄ってらっしゃい　見てらっしゃい
アマビエに　座敷童子に　トイレの花子さん…
おもしろ妖怪　大集合だよ！（帯文より）（帯文より）

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3033/

・アンソロジー『広島・長崎・沖縄からの永遠平和詩歌集
―報復の連鎖からカントの「永遠平和」、賢治の「ほんとうの幸福」へ』

原民喜の詩「水ヲ下サイ／アア　水ヲ下サイ／ノマシテ下サイ」

永井隆の短歌「新しき朝の光のさしそむる荒野に響け長崎の鐘」
西東三鬼の俳句「広島や卵食ふ時口ひらく」
269 名の詩人・歌人・俳人が世界に贈る希望の書

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3025/

・方良里詩集『レモングラス』

方良里氏の内面の深層から魂の在りかとは何かという根源的な問いや、
不条理な戦禍が絶えない世界の中で生きることの意味への問いが根底に存在している。
（鈴木比佐雄：帯文より）

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3024/

・村上喜代子『大野林火論―抒情とヒューマニズム』

詩を愛した少年時代から俳句に導かれ臼田亞浪に師事。
高浜虚子を学び、広く俳壇を知り、俳壇のリーダーとなった林火。
病者や不運な人を俳句によって救おうとしたヒューマニストでもあった。

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3023/

・鈴木美江子句集『山あげの街』

鈴木美江子さんの句集の読者は
新しい季語「山あげ」の誕生に
立ち会うことになるだろう。（長谷川 櫂：帯文より）

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3022/

・董振華　聞き手・編著『語りたい龍太　伝えたい龍太-20 人の証言』

失われた「龍太的なもの」
それを探る 20 人の証言。（長谷川櫂：帯文より）

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3021/

・小島まち子『白い闇-ひと夏の家族』

小島まち子氏は生と死の混じり合った境界を「白い闇」と
イメージして、人びとが様々な困難な情況を生きる際に、
「白い闇」を見つめるだけでなく、そのただ中で精一杯
生き抜くことの意味を私たちに伝えてくれている。（鈴木比佐雄：帯文より）

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3020/

・酒井力詩集『黒曜の瞳』

酒井力氏の「小さな村」は、実は酒井氏だけのものではなく、
多くの他者の中にもある「未来につなぐ／かすかな希望」であるだろう。
（鈴木比佐雄：帯文より）

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3018/

・与那覇恵子詩集『沖縄の空』

与那覇恵子氏の中国・台湾・沖縄周辺の戦争前夜のような
危機意識から発せられた詩篇には、現在の様々な困難な情況を
見すえて、それでも言葉の逆説的なレトリックも駆使しながら、
他者との言葉の「ギャップを見すえて」決して希望を失わない知恵が宿っている。
（鈴木比佐雄：帯文より）

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3017/

・おおしろ建句集『俺の帆よ』

おおしろ建氏の俳句の第一の特長は、眼前の現実からイメージを飛翔させ、
作者独自の心象風景として深め、言葉の芸術として力強く再構築してゆくところだ。
（鈴木光影：帯文より）

https://www.coal-sack.com/syosekis/view/3016/

～　～　～　～　～　～　～　～　～　～　～　～　～　～　～　～

＊昨年刊行の文芸書を含め、これまでにコールサック社から刊行された
　全書籍の情報を、コールサック社ホームページでご覧になれます。

↓↓↓↓　コールサック社ＨＰはこちら　　↓↓↓↓
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

http://www.coal-sack.com/

ご購入はメール、電話、FAX で受け付けています（送料は無料です）

└──→【mail】 m.suzuki@coal-sack.com
【TEL】03-5944-3258
【FAX】03-5944-3238
（営業部　鈴木光影）

今後ともコールサック社をよろしくお願いいたします。

メルマガ配信停止ご希望の方はお手数をおかけしますが

m.suzuki@coal-sack.com

（鈴木光影）までご連絡ください。

株式会社コールサック社（代表・鈴木比佐雄）http://www.coal-sack.com/

〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-63-4-209
TEL03-5944-3258　FAX03-5944-3238
（ご購入に関してのご質問・ご要望などは鈴木光影までお問い合わせ下さい）
営業部　鈴木光影
E-mail:　m.suzuki@coal-sack.com

◎俳句かるたミックス・・・ http://www.coal-sack.com/haiku-karuta/

★X（旧 Twitter）　・・・　https://twitter.com/Coalsack_sha

☆Facebook ・・・・・　https://www.facebook.com/coalsack.sha

（メルマガ送信　鈴木光影、羽島貝）
（制作協力　鈴木比佐雄、座馬寛彦）